



藍原 章 議員

問 高島市の平和教育のねらいを問う。

答 教育指導部長

戦争を直接体験している世代の方々が年々少なくなっている現状を踏まえ、子どもたちが戦争の悲惨さを忘れることなく、二度と起こさないという強い気持ちをもち、平和の大切さを次世代へと引き継いでくれるよう、平和教育の充実に努めることが大切であると考えています。

問 平和学習は、どのような取り組みを行っているか問う。

高島市の小中学校での平和教育について伺う

答 教育指導部長

すべての小学校で、修学旅行は広島を訪れ、原爆資料館で被爆の歴史や悲惨さを学び、児童一人ひとりが平和の大切さについて考える取り組みを行っています。中学校では、修学旅行で沖縄を訪れ、戦跡を巡るフィールドワークを通じ、戦争の記憶や平和の尊さを学ぶ学校や、社会科の授業などを通じて、戦争の背景や原因、戦争に至る過程などを学ぶことで、平和について主体的に考え、学びが深まるよう取り組んでいる学校もあります。

問 高島市の平和教育のねらいを問う

答 平和教育の充実に努めることが大切であると考えています

問 体験活動はどのような活動を実施しているか問う。

答 教育指導部長

滋賀県平和祈念館訪問や、出前授業を受け、県内で起こった戦争の歴史について学びを深めている学校もあります。

また、多くの学校では、人権集会や文化祭などの場を活用し、児童生徒がプレゼンテーションを行うなど、平和の思いや考えを発信する機会を設けています。

問 地元・地域との連携はどうか問う。

答 教育指導部長

戦時中の様子を知る学習で、地域の方々にボランティアガイドをお願いし、地域探訪を実施している学校があります。また、平和学習のまとめの発表会に、地域の方々に参観していただく取り組みを行う学校もあります。

さらには、「高島市戦争犠牲者を追悼し、平和を誓う市民の集い」では、次世代戦跡訪問研修を終えた中学生が、地域の方々に平和への思いを発表する機会もありました。

今後、地域との連携の形は様々ですが、地域の方々の協力をいただきながら、平和教育の充実に努めてまいりたいと考えています。

その他の質問

・子どもを被害者にも加害者にもさせないAーペアレンタルコンテンツアプリの活用について伺う